

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 11月29日

【評価実施概要】

事業所番号	3671500613
法人名	社会福祉法人 白寿会
事業所名	グループホーム よしの
所在地	徳島県阿波市吉野町柿原字二条146番地 (電話)088-696-5533
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 11月 27日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 4月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26 人	常勤13人,非常勤13人,常勤換算A棟5.5人,B棟6.5人,C棟7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	なし	その他の経費(月額)	水道光熱費9,000円・その他実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	160 円	昼食	360 円
	夕食	310 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		930円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護1	6 名	要介護2	7 名		
要介護3	10 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・中山医院 ・つかさクリニック ・藍里病院 ・うやま歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは地域に溶け込み、地域住民の方が家族の一員のようにほとんど毎日ボランティアとして3~4人が交代で来所している。ボランティアの方なのか、職員なのか、利用者なのかわからないほど「できる人ができるかたちで、できること」を行っている。明るい雰囲気、和気あいあいと支援されており地域に根ざした支援が感じられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では特に改善点はなく、前回、少しアドバイスした様式について1年の間に試行錯誤し、自分たちの使いやすい様式に改善し作成されていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が一項目ずつ検討して自己評価をし、作成されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、利用者家族代表、地域住民代表、地域包括支援センター職員、ボランティア代表など幅広いメンバーで構成され、地域への理解と支援を得る為の配慮が感じられる。議事録等書類面においても整備されている。ただ、会議の内容は職員にミーティング時に口頭で報告されていたが、報告を受けたことの確認印や、サインがされていない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情処理はどんな些細なことでも報告書を作成し、1~2日の間に解決している。内容については第三者委員にも確認してもらう手法をとっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民との交流が深く、毎日のように季節の食材を地域住民から届けられ、イベントを行えば、周辺の清掃から設営にまで手を貸してくれるなど、地域と共に支え合う関係作りが十分にできている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	常に地域住民との交流を考え、地域住民としての意識を職員全員が持っており、その人らしさを続けられるような事業所独自の理念が作成されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝ミーティングの中で全員で提唱し確認し合い、自ら職員全員が同じ意識をもって同じ介護力がもてるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小・中学校の運動会への参加や老人会・幼稚園との交流に心がけ、地域の祭り、納涼祭にも参加して地域の一員として溶け込んでいる。また、地域住民ボランティアもほとんど毎日来られ、地元の人々との交流も図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を全職員が理解し、今回の自己評価についても各項目について各自考え、自己評価を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、グループホームの現状報告、利用者や利用者家族からの意見、要望なども話し合わせ、その内容は議事録に残され、整理・保管されている。しかし、職員に回覧し内容を周知したことの確認印やサインが残されていない。	○	議事録を閲覧したとする記録を残すために確認印・サインをされることが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員と連絡を取り合い話し合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員の異動については「グループホームだより」に掲載し、本人からのコメントも入れ家族等にも報告している。利用者の暮らしぶりなどについては担当職員が手紙にして毎月報告している。金銭は出納簿で管理され家族の確認印がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム内での苦情受付担当者、公的外部相談機関の他、第三者苦情処理委員を設けており、いつでも意見等言ってもらえるよう各連絡先を目に付くところへ張り出し、来所時には伝えている。また苦情や意見が出た時は1～2日以内に解決できるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループ内での異動は1年毎に一部行われるが、異動時には各担当者間で十分に申し送りをし、利用者へのダメージが少なくなるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画書が有り、その段階に応じて職員が受講し報告もされている。新人職員については併設施設で介護の基本を6ヶ月受講してから配属されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会の部会への参加や近隣グループホームの管理者、介護職員との交流・同法人内のグループホームでの意見交換等実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族と常に話し合うことでお互いを理解し、利用者にとって、一番良い生活環境を整えていく支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が一体となれる家庭的な雰囲気づくりを目標に掲げ、お互いに助け合い、支え合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の利用者の生活環境や経験、趣味等を把握し、毎日の生活の中で活かせるよう、出来事や流行歌の題を書き出した年表(「私の生活史シート」)を作り、利用者の生活歴と照らし合わせ、その人を理解する努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりの生活歴を把握して過ごされた時期や場所によって価値観が違うことを十分理解し家族とも話し合い、個々に合った介護計画の作成がされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しがされており、職員全員で話し合い、介護計画が見直されている。また、変化が生じた場合はその都度家族に相談し理解と確認を受けて計画変更がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算をとっている。また本人や家族の状況、要望に応じ、通院や送迎等柔軟に応じるよう支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する医療機関をかかりつけ医とし、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について利用者・家族と十分話し合っており、方針の共有に努めている。入院した場合には入院先の関係者とは密に連絡を取りながら状態把握に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取扱には十分な気配りをしている。また、毎朝行うミーティングの中で日々の出来事を題材として、報告や意見交換がなされ、職員同士お互いに利用者への言葉かけや対応についてプライバシーの確保が徹底できているか研修の場ともなっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の生活を送ってもらうため、職員の押しつけの支援にならないよう、利用者の希望に添って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に買い物に出かけたり、調理、片付けができる人は職員、ボランティアと一緒に準備や片付けを行っている。また、職員と利用者、ボランティアも一緒にテーブルにつき、昔懐かしい音楽を流したりしながら和やかな雰囲気の中食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前9時から午後9時まで本人の希望に合わせて入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴・趣味等を把握し、得意分野において持っている力が発揮できるよう支援を心がけている。以前からの馴染みの店へ出かけるなどその人らしい生活を継続するための支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・散歩・通院等あらゆる機会を見つけて、外に出かける機会を多く持てるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者や職員は居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は全てどこも鍵をかけておらず、職員とボランティアが協力し、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施。地域の消防団の協力も得ている。防災計画書・避難訓練報告書が有り、ホーム内の避難経路図の提示や、火災発生時の処置マニュアルも昼間、夜間用を作成し職員に周知されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の栄養摂取量・水分量が記録され、体調管理を行い、バランスのよい食生活支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った花やその年の徳島で行われたイベントを題材に職員、利用者と一緒に「ちぎり絵」を作り壁画に飾られている。去年は映画「バルトの楽園」を題材に、今年は映画「眉山」を題材に作成されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのもを配置されている部屋や、ベッドの布団をクローゼットに片づけられている居室など、利用者が居心地よく過ごせるよう個性のある居室づくりがされている。		